
妊娠期からの親子・家族の愛着形成と 虐待予防のための家庭訪問活動

●
報告書

●
2021 年度



NPO法人
HEALTHY FAMILY はまつ

目 次

理事長あいさつ	1
1. 2021 年度の活動概要	2
1) 家庭訪問事業	
2) 家庭訪問員養成事業	
3) 研修会	
4) 地域連携に向けての交流会	
2. 活動内容	4
1) リスクのある親子への家庭訪問による支援	
(1) 概要	
(2) 実施内容	
(3) 実施結果	
2) 家庭訪問員養成講座	
(1) 概要	
(2) 実施内容	
(3) 実施結果	
3) 研修会	
(1) 概要	
(2) 実施内容	
(3) 実施結果	
4) 地域連携に向けての交流会	
(1) 概要	
(2) 実施内容	
(3) 実施結果	
5) 「妊娠出産に関する制度と手続きについて」翻訳冊子の作成	
3. 今後の展望	18
4. ご寄附を頂いた皆様	19
5. 参考資料	20

理事長あいさつ



NPO 法人として活動を始めて3年目になります。本活動の理念である、親子の愛着が形成されやすい妊娠期、出産直後からの家庭訪問を行い、親子・家族の長所に焦点を当てた支援を大切に、親子・家族の愛着を深め、親が自立し、地域で安心して子育てができる支援を通して、虐待予防に繋がっています。

コロナ禍ではありますが、リモートによるオンライン、Zoom、LINEなどを介して直接寄り添うことのできないもどかしさを感じていますが、了解の得られた家庭には訪問を行っています。会員一同、やる気満々でいます

近年、環境破壊や気候変動、貧困などの問題が大きくなっています。そこで、SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能なよりよい未来を築くために、社会・経済・環境の3側面から17

の目標を2030年までの達成目標が挙げられています。

そこで、HFHでは、こどもたちの未来を守るために、SDGsの残り10年余りを大切に、サステナブルを意識して、行動していきたいと思います。

本活動としては、常に前進、社会的役割と責任を活動に繋げ、地域の人々から愛される活動団体として成長していきたいと考えています。会員の研修や家庭訪問員の養成講座もオンライン研修、一部集合研修に変更し、会員の質の担保を維持しています。活動として、1) 家庭訪問、2) 家庭訪問員養成講座、3) 講演会、研修会、4) 多職種連携のための交流会を行っています。報告書をまとめるに当たり、多くの方々のご理解とご協力、ご支援を頂き、このような成果が得られましたことに感謝申し上げます。

稚拙な報告書ではありますが、NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ (以下、HFH) メンバーが活動目的に沿って一丸となって、日々邁進してまいります。皆様にご拝読頂き、HFHの活動をご理解の上、一緒に活動して頂ける方を募っております。皆様の温かいご理解に支えられて、家庭訪問を必要としている親子・家族に寄り添い、自立した親子・家族が増えていくことを祈願して御挨拶とさせていただきます。

NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ

理事長 久保田君枝

1. 2021 年度の活動概要

1) 家庭訪問事業

新型コロナウイルス感染が継続しており、対象者の状況や意向を確認しながら、感染予防対策を徹底して家庭訪問を行ったほか、電話やメール等での支援を実施した。地域の産科婦人科医院の産後ケアとの連携ルートができ、紹介ケースの訪問が始まった。妊娠期からの支援に加えて、産後の子育て期の支援も活動に位置付けて、対象者に活動を紹介するリーフレットを作成した。浜松市内の小児科や産婦人科医院、保育施設などに配布した。事例検討会は、毎月開催した。

<家庭訪問ケース>

2021 年度：15 ケース

2) 家庭訪問員養成事業

新型コロナウイルス感染もワクチン接種の拡大に伴って落ち着いてくることが期待されたため、養成講座を開催した。県外講師の講座は Zoom での講義とした。HFH の家庭訪問活動の考えに基づいて具体的な支援方法を全 10 回の講座で予実施した。

<受講者数>

2021 年度：全講座受講修了者：5 人、部分受講者：2 人

3) 研修会

親の気持ちのゆとりが子どもへの愛情に影響するため、親がうまく子どもと関わるために大切なことをテーマとして講演会を開催した。講師はアメリカ在住のヘネシー澄子先生に依頼した。新型コロナウイルス感染予防対策の影響で来日の目途が立たないため、Zoom での研修会を開催した。

アメリカ（コロラド州）自宅  聖隷クリストファー大学 研修会場

テーマ「子育てのゆとりのとり方と親子の愛着・脳の発達」

参加者数：14 人（HFH 会員と関連専門職者）

<ヘネシー澄子>

クロスフォードソーシャルワーク社所長、東京福祉大学名誉教授

東京外国語大学仏語科卒業後、ベルギーとアメリカに留学。フォーダム大学で社会福祉学士号、デンバー大学で博士号を取得、ニューヨーク大学社会福祉大学助教授を経て、1974 年コロラド州に移住。インドシナ難民の為に施設を設立、同所長として治療と共に人材の育成に尽力。2000 年に引退し、東京福祉大学に実習担当教授として赴任。2005 年に東京福祉大学名誉教授を務め、多数の著書を執筆している。

日本各地で公演や研修会などの活動を行っており、現在はコロラド州オーロラ市に在住し、児童福祉に関わる会社を立ち上げ、児童福祉に携わる人への研修を日米両国で行っている。

会員が参加したアメリカでの研修会

1 回目 2012 年 7 月フロリダ州セント・ピーターズバーグ州

「健康な家族アメリカ運動」、「長所に焦点を当てた子育て家庭支援訪問」技術研修

- 2回目 2013年7月コロラド州エバークグリーン市
「修復的愛着障害療法技術研修」
- 3回目 2014年3月ハワイ州ハワイ島コナ市
「児童虐待防止に関わるスタッフ向け研修」
- 4回目 2016年9月コロラド州・エバークグリーン市
{スーパーヴィジョン 看護師・助産師と家族パートナーシップ}
「児童虐待防止に関わるスタッフ向けの脳を働かせる」



4) 地域連携に向けての交流会

質の高い子育て支援をするためには、保健・医療・福祉・教育が連携していくことが重要である。2019年度からネットワークづくりを目指して、交流会をスタートさせ、社会福祉関係者や保健師との交流会を行ってきた。今年度は、弁護士と児童の社会福祉活動を行っている組織との交流会を開催した。

第4回地域連携に向けての交流会

日時：2021年5月25日 18:30~20:00

参加者：HFH 会員、子どもと家族の支援に関わる人 11人

内容：橋本友妃子弁護士による講義

「子どもと家族の生活を守る法律の基礎知識」

事例に基づいて、それぞれの立場から意見交換

第5回地域連携に向けての交流会

日時：2021年9月16日 18:30~20:00

参加者：HFH 会員、社会福祉士関係者 9人

内容：聖隷クリストファー大学社会福祉学科教授 藤田美枝子先生による講義

「子どもと家庭を支えるNPOの役割」

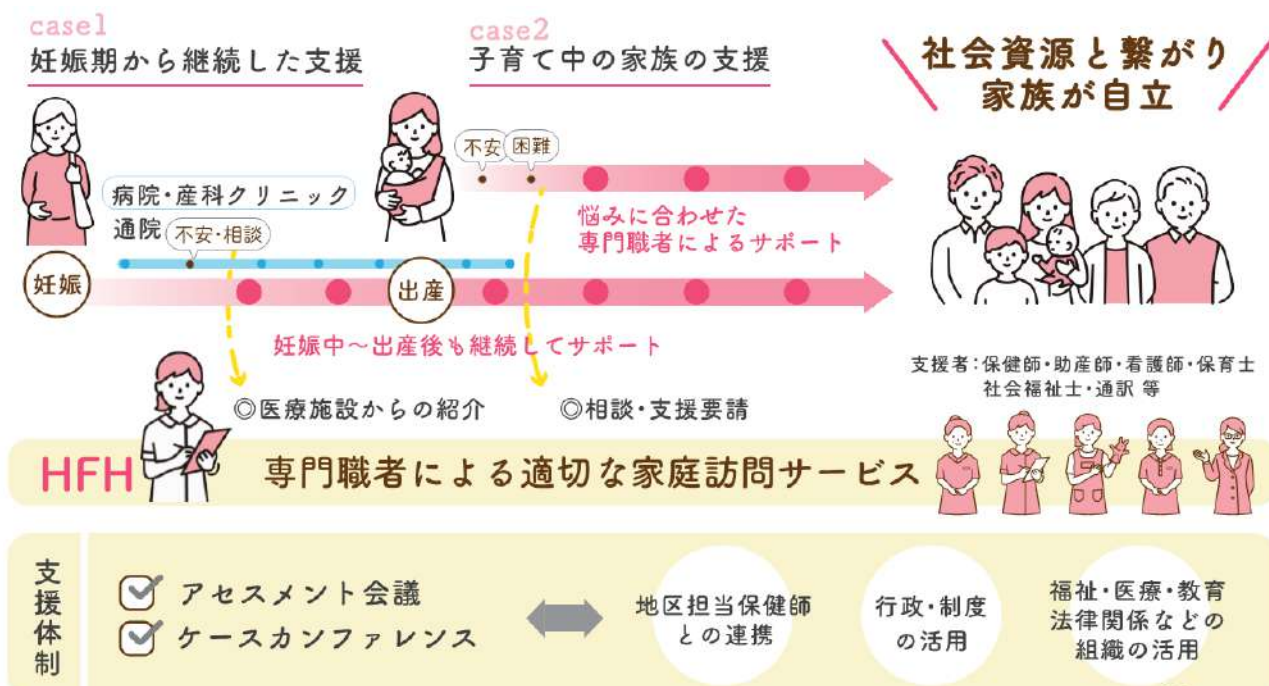
質疑応答、意見交換

2. 活動内容

1) 寄り添いを必要とする親子への家庭訪問による支援

(1) 概要

＜HFH 活動概要図＞



家庭訪問の対象は、病院などから紹介を受けて、スクリーニング項目に基づいてアセスメント会議で決定し、定期妊婦健康診査時に産科外来にて趣旨を説明し、同意が得られたら「同意書」を交わして、妊娠期から産後6か月までの地域とのつながりができるまでを一区切りとして家庭訪問による支援を行ってきた。家庭のもつニーズの把握のための「両親の背景調査」を行い、家庭がもつ長所を生かした支援計画をたて、親子の愛着形成を主軸として親になる自覚が持てるように支援してきた。2021年度は、新型コロナウイルス感染が継続しており、対象者の状況や意向を確認しながら感染予防対策を徹底して家庭訪問を行ったほか、電話やメール等での支援を実施した。

更に、知人等からの要請に対応して、支援対象を子育て中の親子へと拡大して親として子育てに前向きに取り組んだり、生活の安全・安定が図られるように支援した。対象者に活動を紹介するリーフレットを作成して、浜松市内の小児科や産婦人科医院、保育施設などに配布し、2件の問い合わせがあり、1件が家庭訪問支援につながった。

また、産後ケアの充実に向けた施策が進み始めたこともあり、地域の産科婦人科医院との連携に向けての取り組みをスタートさせることができた。情報共有や記録方法を話し合い、紹介ケースへの訪問を開始した。

月1回のケースカンファレンスで、ケースの情報を共有し、支援方法の検討を行い次の家庭訪問につなげ、質の高い支援を担保してきた。

(2) 実施内容

＜家庭訪問実施ケース＞ 2021 年度

ケースNO	年代	訪問対象とした要因	支援の状況
1	20代	支援者なし、経済的問題、父母の生育歴	終了
2	30代	支援者なし、育児不安、DV、夫外国籍	継続
3	20代	若年、望まない妊娠、シングル	終了
4	20代	育児不安・支援者なし・経済的不安	終了
5	10代	若年	終了
6	10代	若年	終了
7	10代	若年、シングル	継続
8	30代	育児不安	継続
9	30代	成育歴・育児不安	継続
10	30代	メンタル既往	継続
11	30代	成育歴・育児不安	継続
12	20代	成育歴・育児不安	終了
13	20代	成育歴・支援者なし・経済的不安	継続
14	30代	育児不安・メンタル既往	継続
15	30代	外国籍	終了

＜ケースカンファレンス会議の開催＞

- ・会場：聖隷クリストファー大学 会議室
- ・内容：月に1回家庭訪問員が集まって各々の支援状況を報告し、支援の方向性やサポート内容等を検討して次の訪問につなげた。新型コロナウィルスの感染状況に応じてZoomでの参加を併用して開催した。会議はソーシャルディスタンスを保って行った。
- ・開催日・参加者（2021 年度）

回	年月日	参加者
第1回	2021年4月23日	訪問員 9名、事務局 1名
第2回	2021年5月28日	訪問員 8名、事務局 1名
第3回	2021年7月2日	訪問員 5名、事務局 0名
第4回	2021年7月30日	訪問員 5名、事務局 1名
第5回	2021年8月27日	訪問員 5名、事務局 1名
第6回	2021年9月24日	訪問員 6名、事務局 0名
第7回	2021年10月22日	訪問員 8名、事務局 1名
第8回	2021年11月26日	訪問員 7名、事務局 1名
第9回	2021年12月17日	訪問員 7名、事務局 1名
第10回	2022年2月25日	訪問員 6名、事務局 1名
第11回	2022年3月25日	訪問員 7名、事務局 1名



(3) 実施結果

15 ケースに対して支援を行った。7 ケースが支援終了となり、8 ケースは 2022 年度も継続して支援していく。

2) 家庭訪問員養成講座

(1) 概要

親子に寄り添い、親と子の愛着の絆を育んでいくことができるように HFH の理念と活動目的、家庭訪問スキルなど 10 講座を受講し学びを深め、妊娠・出産直後から定期的な家庭訪問を行い、家庭訪問員を養成する。在日外国人のための通訳者にも、10 講座を修了することを義務付けている。講座においては、演習が重要な内容も多いため、感染予防対策を徹底して行った。県外講師の講座は Zoom での講義とした。

- ・会 場：子ども支援センターはままつ（浜松市中区泉 3-1-38 石川ビル 1 階）
- ・対 象：保健師、看護師、助産師、保育士、教育関係者、児童民生委員、行政職員、子育て支援者、バイリンガルの方等
- ・参加費：1 講座 1,000 円

<2021 年度家庭訪問員養成講座>

No	テーマ	講師
1	NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際	久保田君枝
2	地域社会の資源につなぐ	山名れい子
3	ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～	行田智子
4	家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	行田智子
5	子どもの成長・発達と生活づくり	高橋由美子
6	子どもと心を通わせるふれあい遊び	高橋由美子
7	訪問の基本～ロールプレイ～	宇田公美子
8	訪問の実際～よくある質問と支援の内容～	木村里香
9	実践を支える 5 つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～	坂鏡子
10	実践を支える 6 つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～	坂鏡子

(2) 実施内容

第1回テーマ：「NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際」

- ・日 時：2021 年 10 月 30 日(土)13：00～15：00
- ・講 師：久保田君枝(聖隷クリストファー大学教授)
- ・参加者：3 人

第1回は、HEALTHY FAMILY はままつ（以下、HFH）の活動理念、目的をヘルシーファミリーアメリカ(以下、HFA)の活動理念を参考に、先進的な母子・家族支援の取り組みについて説明した。アメリカ研修で学んだ、訪問者が家庭訪問時に心がけていることについて紹介した。それは、訪問者は親の育児行動、愛着行動の良い点を褒め、認め、親の肯定的な育児を促進させ、親子・家族の愛着形成を促し、親の自立を促す支援を行っていた。その成果として、子ども虐待が減少し、子どもが健全に養育され、親子・家族の絆を深め、親の自立に繋がっていた。

そこで、日本における虐待予防に、HFH は、浜松方式による家庭訪問活動を通して、ローリスクの親子が自立できる支援を行っている現状を説明し、家庭訪問の事例の紹介を通して、家庭訪問の意義などについて説明した。

さらに、HFH の会員の育成のために、研修やケースカンファレンスなどを行い、訪問員の質の担保のためにを行っていることを説明した、さらに、家庭訪問員の養成講座を通して会員の募集や家庭訪問員を募り、一緒に活動しましょうと働きかけた。



第2回テーマ：「地域社会の資源をつなぐ」

- ・日 時：2021 年 10 月 30 日(土) 15：00～17：00
- ・講 師：山名れい子(保健師)
- ・参加者：3 人

第2回では、前半に「地域社会の資源につなぐ」とはということかという基本的考え方を説明した。後半に養育支援訪問員として知っておくといわれる浜松市内の資源について、参加者と情報交換しながら紹介、確認した。参考資料として『はままつ子育てガイド』『浜松市の母子保健事業の取り組み』を紹介、配布した。HFHの愛着形成を主目

的としている訪問では、実際の訪問事例を紹介しながら、地域資源を知って適切に活用していくことで、訪問対象者により寄り添ったサポートができることを紹介した。また、参加者同士の経験や考え方を述べていただき、求められる援助内容について情報交換した。

第3回テーマ：「ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～」

第4回テーマ：「家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～」

- ・日 時：2021年11月13日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
- ・講 師：行田智子(群馬県立県民健康科学大学看護学部教授)
- ・参加者：5人

第3・4回は、Zoomでの講義を行った。HFAの家庭訪問事業で行われているニーズの把握方法として、両親調査(ケンプ・アセスメント)について説明した。具体的には両親調査時の注意点、両親調査10項目の質問例、両親調査の報告書の記入と評価、評価に基づく家族の強みと弱み(課題)の査定の仕方の説明をした。講師が実践した支援の紹介をしながら、妊娠期の支援と育児期の支援のポイント、妊娠期から育児期までを継続して支援していくことの重要性を説明した。実際の面談を想定して、演習も取り入れながら進めた。

第5回テーマ：「成長発達と生活づくり」

第6回テーマ：「子どもと心を通わせるふれあい遊び」

- ・日 時：2021年11月20日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
- ・講 師：高橋由美子(元岐阜聖徳大学看護学部看護学科講師)
- ・参加者：3人

第5・6回ではライフコースにおける乳幼児期の重要性を確認し、子どもの成長・発達の概要や子どもの健康な成長・発達の基盤となる予防接種、安全、日常生活の注意点等を説明した。また、月齢ごとの特徴をふまえて支援のポイントを確認した。親子の愛着を促すあそびを紹介し、実際に乳児人形を用いて、対象者・支援者役となって、子守歌や絵本読み、ふれあい遊びの演習をした。身近な素材を使って、参加者一人ひとりが手作りのおもちゃを作成し、共有した。





第7回テーマ：「訪問の基本～ロールプレイ」

- ・日 時：2021年11月27日（土）13：00～15：00
- ・講 師：宇田公美子（ルツ助産院院長）
- ・参加者：4人

第7回では、グループワークとして、ケースを設定し、ロールプレイを行った。ケースが両親調査のふり分けで何点であるか、訪問員がどのような声かけを行っていくかなど、実際の訪問を想定しグループ別にロールプレイを行い、良い点や改善点を共有した。訪問のイメージをつくるために役立つ講座となった

第8回テーマ：「訪問の実際～よくある質問と支援の内容」

- ・日 時：2021年11月27日（土）15：00～17：00
- ・講 師：木村里香（保健師）
- ・参加者：4人

第8回では、育児支援の視点として①親子関係を観る視点。②子どもの健康な成長と発育。③母親の精神状態の把握。④夫、親族との関係の視点よりそれぞれの具体的な見方の説明をした。親のイライラの募る原因とし考えられることを、各々意見を出してもらいながら以下にまとめた。①乳幼児を知らないまま親になっている。②自己実現という欲求と関係③夫婦関係から整理し確認した。家族として観ていく、長所を生かした援助事例を通し、実際に訪問した時の支援を皆で考えた。最後に訪問にあたり、ひとりで抱え込まないこと、他の訪問員に相談すること、地区担当保健師と連携を取り合うことを伝えた。

第9回テーマ：「実践を支える5つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～」

第10回テーマ：「実践を支える5つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～家庭」

- ・日 時：2021年12月11日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
- ・講 師：坂鏡子（NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長）
- ・参加者：第9回5人、第10回7人

第9・10回では家庭訪問の実践を支える5つの戦略として、①ストレスを理解し寄り

添う、②肯定的な事柄を強調する、③一緒に探索し思いをめぐらす、④一般化する(正常化する)、⑤問題の検討を挙げ、聞き方の戦略としては、①一般化(正常化)、②明確化、③オープンな質問、④ワーカーとしての心得を説明した。講義内容をふまえてロールプレイを行い、理解を深めた。問題の検討の3段階としては、第1段階：気がかりな子どもの行動や親の意見や考えをまとめる。第2段階：その意見は一般的に信じられてきたもの、一般的によくあることだと伝える。(一般化・正常化)。第3段階：一緒に思いをめぐらせ、親の知識や解決方法を広げる情報を伝えるであるという説明をした。最後に、日頃の活動における疑問などに応えた。



(3) 実施結果

1. 講座受講者：42人（延べ人数）

全講座受講修了者：5人、部分受講者：2人

2. 家庭訪問員の養成講座のアンケート結果（回収38人：90％）

問1 講座の内容全般について（4択）

内容	回答者
1) とても満足	83 (%)
2) 満足	17 (%)
3) やや不満足	0 (%)
4) 不満足	0 (%)

問2 どんな点が良かったか(複数回答可)

内容	回答者
1) 役立つ情報が得られた	95 (%)
2) 日頃の生活や活動に役立った	53 (%)
3) スキルアップにつながった	58 (%)
4) 他の参加者との交流・情報交換が図られた	42 (%)
5) 抱えていた問題・不安の解消につながった	5 (%)

問3 その他の良かった点の内容

第1回	該当なし
第2回	該当なし
第3回	・実際の面談を想定して、演習ができて良かった。 ・Kenp America の評価表について知ることができた。
第4回	該当なし
第5回	・資料が多く、自分だけでは見つけられない情報が多くあったため、役に立った。 ・自分の知識と根拠に基づいた知らない知識も習得できてよかった。
第6回	・実際に絵本の読み聞かせやおもちゃ作りなど、他の参加者の方の方法なども身近で知ることができて勉強になった。 ・生活にある物で楽しく遊べるという点がとてもよかった。自分自身も楽しむことができた。
第7回	・実際のロールプレイをすることで、訪問する立場、受け入れ側のイメージがついた。
第8回	・訪問する側の大切な視点、考えなどとても大切にする心構えを教えて頂けてよかった。
第9回	・わかりやすく伝えてもらったためとても勉強になった。
第10回	・とてもわかりやすい講義だった。系統立てて、キーセンテンスを使いながら実践も多くさせてもらったのでとても満足である。 ・具体的な実践方法、直接役に立つスキルを教えて頂けた。

問4 どんな点が良くなかったか(複数回答可)

該当なし

問5 意見

第1回	・貴重な話が聞けてよかった。疑問に思ったこと等にも答えていただきありがとうございました。
第2回	・地域での支援システム等、あまりよく知らなかったため、とても勉強になった。受講者が一人だったため仕方がないですが、返し方や質問などロールプレイできる場があると尚よかったです。
第3回	・勉強になりました。 ・オンライン上でしたが、演習もできてよかった。
第4回	・はじめて学ぶことばかりだったが、とても分かりやすかった。
第5回	・とても分かりやすい講義で、いろいろ復習や新しい知識、情報を得ることができました。
第6回	・子守唄や絵本の読み聞かせ、おもちゃの作成など、実際にやることで楽しみながらどうやったらいいかも考えつつ受講できた。
第7回	・訪問看護について他の方のロールプレイができてとても勉強になった。 ・ロールプレイなど、実際にやると難しいですが、とてもためになりました。
第8回	・実際の話が聞けて、実際の訪問のイメージが少しできたかなと思う。 ・演習が難しかったが、自分たちで考えることができて良かったです。

第 9 回	該当なし
第 10 回	・演習が難しかったですが、丁寧な講義でわかりやすく、他の人たちの発表で気づくことも多くありました。 ・最近、職務において保護者の方とお話を伺うことが多いので、参考になりました。学んだことを生かしていきたいと思います。

3) 研修会

(1) 概要

質の高いサービスの提供が求められるため、年 1 回外部講師を招いての講演会・研修会を実施している。2021 年度当初計画では、新型コロナ感染予防対策を考えて規模を縮小して 50 名の募集で講演会を予定した。しかし、感染拡大状況が持続したため、さらに少人数で HFH 会員と関連専門職者を対象とした研修会という形式に変更して実施した。

(2) 実施内容

- ・日 時：2021 年 8 月 21 日（土）18：30～20：00
- ・講 師：ヘネシー澄子先生（クロスフォードソーシャルワーク社所長、東京福祉大学名誉教授）
- ・テーマ：「子育てのゆとりのとり方と親子の愛着・脳の発達」
- ・会 場：アメリカコロラド州と参加者を Zoom でつないで開催

(3) 実施結果

1. 参加者：HFH 会員 8 人、関連専門職者 6 人

2. 研修会アンケート結果（回答 13 人）

問 1 講義は有意義だったか（4 択）

内容	回答者
1) とても有意義	46 (%)
2) 有意義	46 (%)
3) やや有意義	8 (%)
4) 無意義	0 (%)

<理由>

- ・腹側迷走神経と背側迷走神経の話が新鮮でした。
- ・解剖、生理学を含めて詳しく説明があった。
- ・科学的根拠と親子の関係性と子どもの脳の働きがまとめられていた。
- ・ポリヴェーガル理論について知ることができたから、もっと深めたいと思うきっかけとなった。”
- ・愛着の大切さ、愛着はいつからでも形成できる等再確認ができた。
- ・愛着の絆の重要性を改めて感じた。
- ・改めて、妊娠期、乳幼児期からの愛着形成の大切さについて学ぶことができた。
- ・ポリヴェーガル理論について研修を受けたのは初めてだった。有意義な研修をありがとう

ございました。

問2 話し合いは有意義だったか（4 択）

時間の都合で質疑応答となった

内容	回答者
1) とても有意義	0 (%)
2) 有意義	63 (%)
3) やや有意義	37 (%)
4) 無意義	0 (%)

<理由>

- ・時間のことを考えて質問は遠慮されたかもしれない。
- ・メールで対応してくださるという判断がありがたいなと思った。

4) 地域連携に向けての交流会

(1) 概要

2019 年度から社会福祉活動を実践している専門職者や行政の保健師との交流会を開催し、保健・医療・福祉の活動における互いの立場を知り合うよい機会となり、必要な時に連携できる関係をつくっていくことの必要性が確認された。

2021 年度は、地域の様々な組織や活動団体とつながって親子・家族を支援する必要性から、交流の対象を拡大して弁護士との交流会を第 4 回として開催した。子どもと家族の生活に関連する法律の基礎知識を確認し、連携のネットワークを広げた。また、社会福祉との連携を更に具体化するための交流会を開催した。



(2) 実施内容

<第4回地域連携に向けての交流会>

テーマ：子どもと家族の生活を守る法律・仕組みを活用するために

日 時：2021 年 5 月 25 日（火）18:30～20:00

目 的：子育て支援を必要としている対象者は、ひとり親家庭・経済的問題・言語理解の困難など様々な問題を抱えている。法律・制度を活用して、少しでも暮らしやすくなるように支援をしていくための方法を考える機会とする。

場 所：聖隷クリストファー大学

内 容：①講義「家庭訪問の中で法的支援の必要性を感じた場合の対応について」

橋本友紀子弁護士（小原総合法律事務所）

②質疑応答、意見交換

<第5回地域連携に向けての交流会>

テーマ：子どもと家庭を支える NPO の役割

日 時：2021 年 9 月 16 日（木）18:30～20:00

目 的： NPO 法人しずおか・子ども
家庭プラットフォームの活動
や運営方法から、HFH の活動
の見直しを行い、連携の糸口
を検討する。

場 所：聖隷クリストファー大学

内 容：①講義「子どもと家庭を支える
NPO の役割」

藤田美枝子氏（聖隷クリストファー大学社会福祉学部教授）

②質疑応答、意見交換



（３）実施結果

<第4回地域連携に向けての交流会>

1. 参加者：HFH 会員 9 人、社会福祉関係者 2 人 計 11 人

2. 交流会アンケート結果（回答 10 人）

問 1 講義は有意義だったか（4 択）

とても有意義 8 人

有意義 2 人

<理由>

- ・初めてこのような法的な話を聞いて、わかりやすく興味深かった。
- ・生活苦は借金の有無で相談窓口が違ふとは思っていなかった。問題が複雑な人が多いので、先生が話されていたように、いろいろな所に相談していくことが分かった。
- ・法律はなかなかふれることがなかったので、興味深かった。
- ・普段聞く機会のないお話で、分かりやすくお話していただき勉強になった。
- ・新しい知識を知ることができてよかった。
- ・様々なケースに共通して活かせる知識を学ぶことができた。
- ・いつもいきなり困難なケースは飛び込んでくる。以前 DV や借金のケースを抱えていた。相談すればよかったと思った。今後は、法の支援も視野に入れてケアに当たります。
- ・具体的な対策を聞いた。
- ・出会いそうな問題に関する基本的なことが確認できてよかった。
- ・出会った事例へのアドバイスを頂けるようなつながりをもっていきたい。

問2 話し合いは有意義だったか（4 択）

とても有意義 9 人

有意義 1 人

<理由>

- ・ 具体的な事例からの説明も聞いてわかりやすかった。
- ・ 現在に事例なので、イメージがつきやすくわかりやすかった。
- ・ 個別事例について聞くことによりイメージがついてよかった。
- ・ 事例に対してのお話も分かりやすく、これから活かしていきたいと思った。
- ・ 新しい情報をたくさん得ることができた。
- ・ アドバイスする時に有効な知識を得られた。

<第5回地域連携に向けての交流会>

1. 参加者：HFH 会員 7 人、社会福祉関係者 2 人 計 9 人

2. 交流会アンケート結果（回答 5 人）

問1 講義は有意義だったか（4 択）

とても有意義 5 人

<理由>

- ・ 活動の広がりをもたせるための気づきもてた。
- ・ NPO 法人しずおか・こども家庭プラットフォームの活動や運営方法をていねいに説明してくださり、HFH の不足点を見い出すきっかけになった。
- ・ 活動概念図の中でもどのような過程を経てこの 5 本柱になったかが知れた。
- ・ 研究と現場の両輪で動かれている活動の一端を知ることができた。
- ・ 現場で培ってきた思い、つながりを基盤とした活動の力強さを感じた。現場のニーズをさらに研究的に明らかにして対応しているから行政が動くことがわかった。

問2 話し合いは有意義だったか（4 択）

とても有意義 5 人

<理由>

- ・ 色々な現実の話が聞いてよかった。
- ・ 行政に民間団体の利点を伝えていく手順が知れた。
- ・ 厚生労働省の考え方が、変化してきていることが分かった。
- ・ 考えを聞いた。
- ・ 具体的な行政へのアプローチ方法を考える機会となった。

5) 「妊娠出産に関する制度と手続きについて」翻訳冊子の作成

多国籍の妊婦や子育て中の親子を対象に、活用できる制度や手続き方法などを案内する翻訳冊子の作成に取り組んだ。掲載内容の検討・情報収集の後、外国籍の当事者に意見を聞いて原案を作成し、スペイン語訳と英語訳につなげた。今後、3 人の外国籍の母親に体験をふまえて内容を確認してもらい、評価・修正していく。そして、支援対象者に活用していくとともに、HP から情報発信することを検討していく。

＜翻訳冊子目次＞

1. 妊娠に関する制度、必要な手続き

- 1) 妊娠届出書
- 2) 母子健康手帳の交付

2. 出産時の手続き

- 1) 入院時に必要な手続き
- 2) 出生届
- 3) 出産育児一時金
- 4) 児童手当
- 5) 出生連絡票

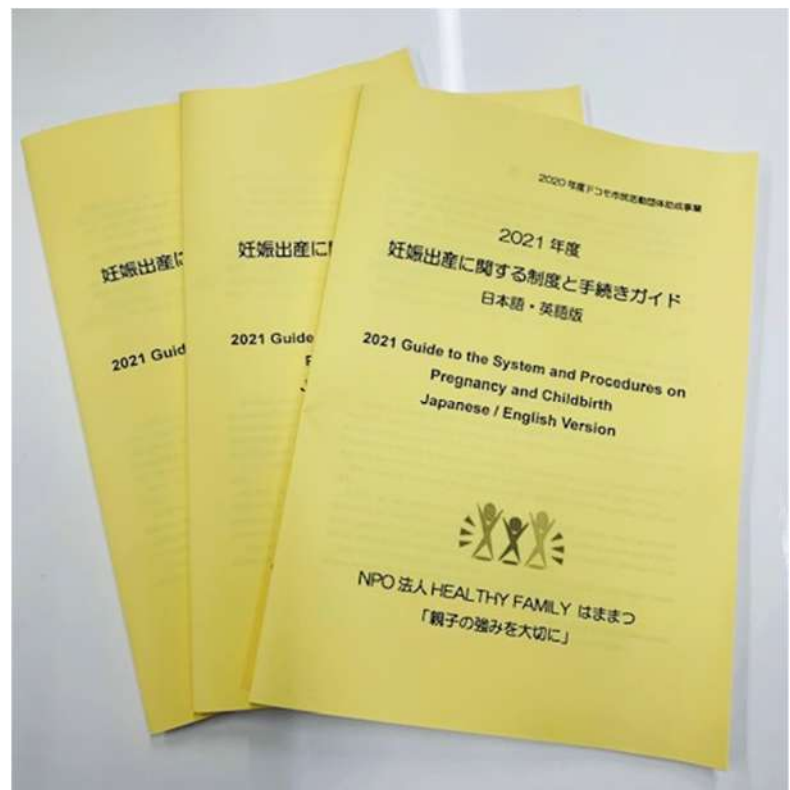
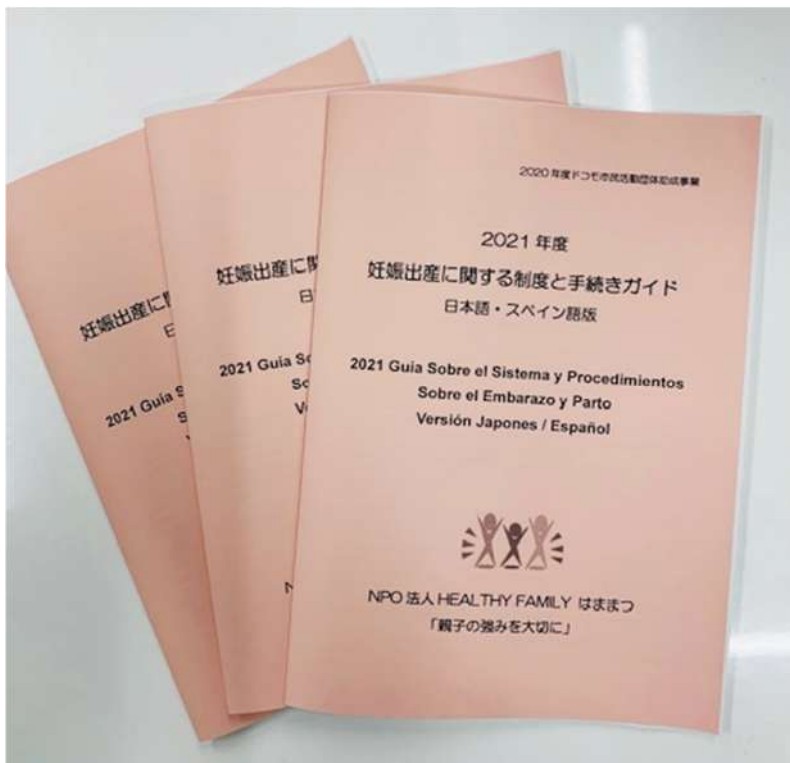
3. 出産後や子育てに関連する制度、必要な手続き

- 1) 乳幼児医療費助成
- 2) 乳幼児医療費受給者証の内容変更・再交付
- 3) 払い戻しによる助成（乳幼児医療費助成償還払い申請）
- 4) 子どもの健康診査
- 5) 予防接種

4. 浜松市の子育て支援・相談窓口の紹介

- 1) 子育て支援広場
- 2) ひとり親家庭を支援する制度
児童扶養手当、浜松市ひとり親家庭等自立支援手当、母子家庭等医療費助成、母子家庭等自立支援給付金等
- 3) 障害のある子どもを支援する制度
未熟児養育医療、自立支援医療（育成医療）、重度心身障害者医療費助成制度、特別児童扶養手当、障害児福祉手当、浜松市重度心身障害児扶養手当、障がいのある子どもや家族が利用できる施設
- 4) 救急時の対応
夜間救急室、静岡こども救急電話、救急車を呼ぶ

翻訳冊子の表紙と目次をのせる



3. 今後の展望

NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ (HFH) は、支援を必要とする人びと・家族から求められる活動団体として常に前進をモットーに 4 年目を迎えています、HFH は、こどもたちの未来を守るために、SGDs の残り 10 年余りを大切に、サステナブルを意識して、行動していきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染の蔓延の中、妊婦・産婦・褥婦・子どもたち、家族がいろいろな面での自粛を求められ、窮屈な思いの中で生活しています。この時こそ、支援を必要としている対象に会員の知恵を結集して応えていく役割を感じています。

経験豊富な保健医療福祉の専門職者が集まった HFH は、対象の一人ひとりを尊重して、支援を必要とする人びと・家族から求められるニーズに応えるために、社会状況の変化に対応しながら、以下の取り組みを実践していきます。

- ① 地域の産婦人科及び小児科医院との連携を広げ、妊娠期から子育て期の家庭訪問によって親子・家族の愛着形成を促す支援とともに、子育て中の支援を必要としている親子・家族への家庭訪問による支援を実施していく。
- ② 地域で活躍している活動団体との交流会やネットワークを更に拡大し、対象者のニーズに対応できるシステムづくりを引き続き検討していく。
- ③ HFH 活動のピーアールや子育てに関する知識を情報発信するためにホームページを充実させる。また、HFH にアクセスできるように名刺サイズカードを作成して支援を必要としている人の目に留まりやすいところに設置する。
- ④ 助成の支援を受けて、家庭訪問対象の家庭で、生活困窮者に生活物資を配布する。



4. ご寄附を頂いた皆様

「NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ」にご理解とご協力いただき、心より感謝申し上げます。

<2021 年度 寄附者ご芳名（令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月末）>

木村産科・婦人科医院 様（浜松市北区東三方原町）

いぬかい小児科医院 様（浜松市東区和田町）

ありがとう
ございます♡



5. 参考資料

2021 年度 静岡県共同募金会助成事業

2021 年度 NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ 家庭訪問員の養成講座





変化する社会情勢の中で、特に昨年はコロナ禍の影響を受けて、子育ての孤立化が進んでいます。多様な家庭状況の中で、不安や葛藤を抱えている親も少なくありません。地域の子育て支援拠点は少しずつ整備されつつありますが、子育てに悩む親をどのように受け止めたらいいいのか、支援者自身も葛藤していると思います。本講座では、ヘルシー・ファミリー・アメリカ (HFA) のプログラムに学び、妊娠・出産直後から、定期的な家庭訪問を行う家庭訪問員を養成します。親にそっと寄り添い、親と子の愛着の絆を育んでいくことができる支援方法を習得します。

講座 No	テーマ	講 師	開催日	時間
第 1 回	NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際	久保田君枝	10 月 30 日 (土)	13:00~15:00
第 2 回	地域社会の資源につなぐ	山名れい子	10 月 30 日 (土)	15:00~17:00
第 3 回	ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～	行 田 智 子	11 月 13 日 (土)	13:00~15:00
第 4 回	家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	行 田 智 子	11 月 13 日 (土)	15:00~17:00
第 5 回	子どもの成長発達と生活づくり	高橋由美子	11 月 20 日 (土)	13:00~15:00
第 6 回	子どもと心を通わせるふれあい遊び	高橋由美子	11 月 20 日 (土)	15:00~17:00
第 7 回	訪問の基本～ロールプレイ～	宇田公美子	11 月 27 日 (土)	13:00~15:00
第 8 回	訪問の実際～よくある質問と支援の内容～	木 村 里 香	11 月 27 日 (土)	15:00~17:00
第 9 回	実践を支える 5 つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～	坂 鏡 子	12 月 11 日 (土)	13:00~15:00
第 10 回	実践を支える 5 つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～	坂 鏡 子	12 月 11 日 (土)	15:00~17:00

新型コロナウイルス感染もワクチン接種の拡大に伴って落ち着いてくることが期待されており、講座を開催致します。演習を伴う講座もありますが、感染予防対策を十分に行っていきます。関東在住の講師による第 3・4 回の講座は Zoom で行うことを予定しております。

資料代 ➡ 全講座 10,000 円 (1 講座 1,000 円 × 参加回数)

会 場 ➡ 子ども支援センターはままつ
(浜松市中区泉三丁目 1-38 石川ビル 1 階)

対象者 ➡ 看護師、助産師、保健師、保育士、教育関係者、行政職員、児童民生委員、子育て支援者、バイリンガルの方等

申込先 ➡ healthy.family.hamamatsu@gmail.com

問合せ ➡ NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
TEL: 053-488-4973 (子ども支援センターはままつ)
090-4790-7719 (久保田君枝)
FAX: 053-488-4974 (子ども支援センターはままつ)




WEB 申込 QR コード

養成講座の受講者募集チラシ (表)

◎ 講師紹介

講師	所属
久保田 君枝	・聖隷クリストファー大学助産専攻科教授、本法人理事長
山名 れい子	・元浜松市保健師、子育て支援ボランティア、本法人家庭訪問員
行田 智子	・群馬県立県民健康科学大学看護学部教授
高橋 由美子	・元岐阜聖徳学園大学看護学部専任講師、本法人副理事長
宇田 公美子	・ルツ助産院、新生児訪問員、本法人理事、本法人家庭訪問員
木村 里香	・保健師、子育て支援ボランティア、本法人理事、本法人家庭訪問員
坂 鏡子	・NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長

◎子ども支援センターはままつのアクセス

- 会場：浜松市中区泉三丁目 1-38 石川ビル 1 階
- 駐車場：浜松市中区幸 5-7-30(第 2 駐車場)
駐車台数(9 台)に限りがあります。
- バス利用の場合：遠州鉄道バス「幸町」停留所
より徒歩 1 分



===== 申 込 書 =====

■講座へのお申込みは FAX・TEL またはメールでお願いいたします。
Web からの申込みできます。

FAX 053-488-4974 **TEL** 053-488-4973

メールアドレス healthy.family.hamamatsu@gmail.com



WEB 申込 QR コード

ふりがな										
お名前										
TEL				メール アドレス						
国家資格の 有無	あり (資格名: _____) ・ 無									
希望講座	※希望講座に○を付けて下さい。 全講座 ・ 講座 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									

※個人情報の利用について、皆様の個人情報は本事業における目的以外で利用しません。

養成講座の受講者募集チラシ（裏）

第4回 地域連携に向けての交流会

— 子どもと家族の生活を守る法律・仕組みを活用するために

日時
2021年5月25日（火）
18:30～20:00

場所
聖隷クリストファー大学
1602教室

参加者
HFH会員、
子どもと家族の支援に
関わる人

<目的>

子育て支援を必要としている対象者は、ひとり親家庭・経済的問題・言語理解の困難など様々な問題を抱えている。法律・制度を活用して、少しでも暮らしやすくなるように支援をしていくための方法を考える機会とする。

スケジュール

18:30 開会あいさつ、趣旨説明

講義

「子どもと家族の生活を守る法律の基礎知識」

橋本 友紀子弁護士（小原総合法律事務所）

19:30 質疑応答、意見交換

まとめ

20:00 閉会、アンケート記載

第5回 地域連携に向けての交流会

— 子どもと家庭を支えるNPOの役割 —

日 時 9月16日（木） 18:30～20:00

場 所 聖隷クリストファー大学 1706会議室
及びZoom 参加

参加者 HFH会員、社会福祉関係者 等

<目的>

NPO法人しずおか・子ども家庭プラットフォームの活動や運営方法から、HFHの活動の見直しを行い、連携の糸口を検討する。

スケジュール

- 18:30 開会あいさつ、趣旨説明
35 「子どもと家庭を支えるNPOの役割」
聖隷クリストファー大学社会福祉学部教授
藤田 美枝子 先生
- 19:30 質疑応答
意見交換
50 まとめ
20:00 閉会、アンケート記載

2021 年度赤い羽根共同募金会助成事業

2021年度HEALTHY FAMILY はままつ 研修会

テーマ

「子育てのゆとりのとり方と親子の愛着・脳の発達」

講師 ヘネシー澄子先生

日 時：2021年8月21日（土）
18:30～20:00

方 法：Zoom

参加者：保健医療福祉関係者 HFT会員

参加費：1,000円

親の気持ちのゆとりが子どもへの愛情に影響します。
親がうまく子どもと関わるために大切なことを、専門的知識をふまえて講演していただきます。

スケジュール

18:30 開会

講演

19:30 質疑応答

20:00 閉会

<問い合わせ>

理事長 久保田君枝
聖隷クリストフ大学

助産専攻科

研究室：053-439-1454

kimie-k@seirei.ac.jp

HFT事務局

healthy.family.hamamatsu@gmail.com

担当：山城、高橋



妊娠期からの親子・家族の愛着形成と 虐待予防のための家庭訪問活動 報告書

2022 年 9 月発行

発行 NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
発行者 久保田 君枝
連絡先 住所 〒433-8124
浜松市中区泉三丁目 1-38 石川ビル 2 階
電話 053-488-4973
メール hfhamamatsu@gmail.com
WEB <http://hfh.jp/>

